

---

# 富山大学 教育学部 附属教育実践研究指導センターニュース

第 8 号

---

CENTER NEWS  
CENTER FOR RESEARCH AND TRAINING IN TEACHER EDUCATION  
FACULTY OF EDUCATION, TOYAMA UNIVERSITY



映像教材開発に威力を発揮する電子編集システム

---

目 次

---

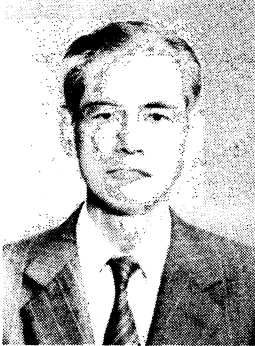
1. 就任に当たって.....	2
2. 昭和63年度センター事業計画.....	3
3. 研究プロジェクトの設置と研究員の募集.....	3
4. 公開セミナー開催.....	4
5. 附属各学校園、堀川小教育研究発表会等.....	4
6. 教師教育ビデオ教材について.....	5
7. センター紀要4号について.....	6
8. 昭和62年度センター利用状況.....	7
9. センタートピックス.....	8

---

1988年6月

富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター

## 就任に当たって



藤井前センター長が定年退官されたため、本年4月からセンター長を仰せつかることになりました。浅学非才の上、経験のまことに乏しいものではありますが、できる限り努力して参りたいと思っておりますので、何分の御指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

当センターも開設以来すでに丸6年を経過しました。この間の施設や備品などの整備状況はまさに見るべきものがあります。また今日まで、大沢屋敷、藤井3代の各センター長、山西教官、またスタッフの御努力や、学部、附属校園等の方々のご理解とご支援のもと、教育実践関連の研究やハード、ソフト両面にわたる各種のサービスにおいて、数々の業績と成果を納めてられました。本来の目的にふさわしい堅実な運営が続けられてき

た何よりの証明であると思っております。

しかしながら、今日、当センターは新しい二つの課題に直面することとなっております。その一つは、教育実習の改善に関するもので、その性格上、センター本来の課題ともいえますが、従前とは異なった対応が必要になってきたと思われるのです。実習単位の増加については教育職員免許法改正法案自体がなお賛否両論のさ中にあります。が、その帰趣はいずれにしても、もともと教大協等ですでに久しく議論されてきたところであり、また現に例えば、教育工学センター協議会での共通研究課題—教育スキルの効果的な形成—を取り上げてみても、今日やはり改めて検討の過程を踏む必要があるといえましょう。

いまひとつは、本年4月から開設された情報教育課程とのかかわりの問題であります。センターの過去の経歴からは、固有の問題であるとはいえ、学部の現況から、センターが事実上の関わりをもつに過ぎないといえましょう。しかしこのことがセンター自身の課題となりうる一面も否定できません。情報化社会のインパクトは当然教師養成の上にも様々な影響を与えます。すでに情報教育関連科目も開設されているところですが、新課程がこの時代性把握の同一線上において学部の一環として位置づけられたものであり、前例のない改革である以上、学部附属教育施設としての当センターがこの新課程の要求にも応えるべきなのかどうか、またそうだとすれば、どのような機能を果たすことができるか等が新しく検討されるべき問題となりましょう。

前藤井センター長は、退官に先立ち、本センターないし各センターが現在一つの転機にあるということをおっしゃいます。小生としては、従来の基本的な運営方針を尊重しながら、このような新しい課題のもつ意味を十分に考え、学部附属教育施設のあり方などを踏まえた上で、当センターが今後進むべき道を探って参りたいと考えます。おそらくこのような課題はひとり本センターのみならず同様の状況におかれた各センターの課題でもあると思っております。各方面からの忌憚のない御批判や御助言を切にお願い申し上げ、就任の挨拶とします。

センター長 佐々木 光 三

## 昭和63年度センター事業計画

5月19日(木)開催の運営委員会において、昭和63年度センター事業計画ならびに予算が審議された。予算は正式な運営経費の内示後決定されるので、その骨子について検討された。特に今年度は、センター運営経費の中から30万円程度を計上し、センター研究プロジェクトの推進を図ることが決定された。

### 昭和63年度センター事業計画

- 昭和63年 6月 センターセミナー「マッキントッシュのグラフ作成ツールについて」  
センターニュース8号発行
- 10月 センター紀要4号発行  
第33回国立大学教育工学センター協議会（横浜国立大学）参加  
「課題研究1 情報教育，課題研究2 教育技術」
- 11月 センターセミナー「教育実習を終えて」  
全教連CAIプロジェクト全国研究発表大会  
福野町小・中・高コンピュータ利用研究発表会 協力  
センターニュース9号発行  
日本教育工学会 教育方法研究会開催
- 12月 公開講座「コンピュータリテラシー育成の為のLEGO-Logo教室」開催
- 昭和64年 1月
- 2月 第34回国立大学教育工学センター協議会（東京学芸大学）参加
- 3月 センターニュース10号発行  
第10回北陸三県教育工学研究会 協力  
電子情報通信学会（電気学会IEEE 共催）  
教育工学研究会「ツールとしてのコンピュータ利用教育」開催

## 研究プロジェクトの設置と研究員の募集

去る5月19日のセンター運営協議会で次のように決定されました。

### 1. プロジェクトの名称

- 1) 教育実習の改善及び教育技術に関する研究（責任者 佐々木）
- 2) 教師教育における情報教育およびコンピュータの教育利用（責任者 山西）

### 2. プロジェクト設定の理由

昭和54年から教育工学センター協議会で課題として追求してきた教授スキルに関する研究は、各地区に於ける共同研究が成果を収め、北陸地区においても昭和61・62年の2年間にわたる福井、金沢、富山3大学の共同研究が55年以來の継続的研究に一応の締めくくりをつけて終了した。63年度からは、教育技術という、より広い観点からの研究が進められることになった。一方本学部におい

でも、昨年から教育情報学に関する科目がカリキュラム化され、また本年からは新しく情報教育課程2コースが新設された。さらに教育職員免許法の改正案が国会に上程されるなど、学外の情勢にも変化がみられる。

この様な状況に鑑み、昨年までの研究の足跡を踏まえて、さらに本学部における教師教育の充実に資するため、従来からの3テーマを2つに集約して研究を発展させたいと考えるものである。

### 3. 研究の推進

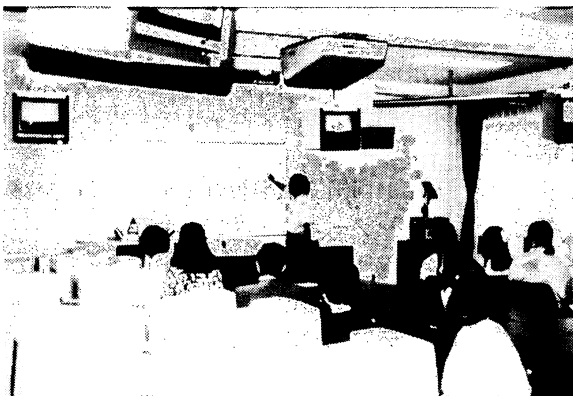
センター規則第7条による研究員の委嘱によって行うこと、またプロジェクト推進費としてセンター経費から30万円程度を支出する予定も合わせて承認された。

以上の通りですので研究プロジェクトに参加ご希望の方は、6月18日(土)までにセンター長までお申し込みください。

## 公開セミナー開催

6月1日(水)の午後約2時間にわたってセンター授業実践研究室において「マッキントッシュの基本操作とグラフ作成ツールの活用について」という公開セミナーが開催された。約20名の教官、学生が参加し、センターの山西助教授の指導のもとにセミナーが実施された。

マッキントッシュコンピュータの優れたユーザーインターフェースによって、初心者でも苦勞なくコンピュータを操作することが可能で、ユーザーはあらかじめ内蔵ハードディスクに格納されているアプリケーションソフトの中から、それぞれの要求にあったソフトを取り出して仕事をすることができるようになっている。実習ではグラフ作成ツールを使用し、データを基にさまざまなグラフ表現を行う手法を学んだ。作成されたグラフは即座に、レーザープリンターで出力され、その印字のすばらしさに皆感嘆した。



## 附属各校園、堀川小教育研究発表会等

本年度の各校園などの研究発表会が次のように開催された。いずれも本学部から教官、学生多数の参加があり、それぞれ盛会裡に大きな成果を収めた。

**附属小学校** 昭和63年度教育研究発表会 5月17日(火)、18日(水)

研究主題：対話的思考を深める授業の充実

一人一人の追求の道筋を自覚する授業の展開………関わりを求め、自らの問いに立つ子供を育てる

**堀川小学校** 第59回教育実践発表会 5月27日(金)、28日(土)

個が育つ教育経営………生き方が深まる授業のはたらき

附属幼稚園 昭和63年度教育研究会 6月8日(木)

幼児の主体的な生活の展開………自由に選んで取り組む活動を通して

附属中学校 教育研究協議会 6月17日(金)

主体性の高まりをめざす課題学習………学ぶ意志の形成

## 教師教育ビデオ教材について

センターでは、教育実習の指導に活用できるビデオ教材として、放送教育開発センターが開発している教師教育ビデオ教材を毎年購入してきている。これまでの、附属学校における「教育実習の日々」及び、「実習生の授業」に加えて、去年は公立学校における「教育実習の日々」全3巻を購入したので、ぜひ活用して頂きたい。既存のビデオ教材のリストと新しく購入したビデオの内容を以下に簡単に紹介する。

### 教師教育ビデオリスト

- 1) 教育実習の日々ー附属小学校編 (50分)
- 2) 教育実習の日々ー附属中学・高校編 (40分)
- 3) 実習生の授業ー小学校・国語 (60分)
- 4) 実習生の授業ー小学校・算数 (40分)
- 5) 実習生の授業ー中学校・英語 (50分)
- 6) 実習生の授業ー高校・国語 (50分)
- 7) ある教師の授業ー小学校・算数 (60分)
- 8) 教育実習の日々ー公立小学校編 (40分)
  1. 教育実習生になって  
(登校風景, 全校紹介, 施設案内, 学級紹介, 授業参観)
  2. 最初の授業  
(授業の準備, 理科の授業, 授業の反省)
  3. 全日指導  
(全校朝礼, 朝の打合せ, 国語の授業, 給食指導, 他学級参観, 昼休み, 体育の授業, 帰りの会, クラブ活動, 明日の授業の準備)
  4. 運動会
  5. 研究授業  
(担任の事前指導, 指導案作成, 指導案の印刷, 研究授業, 授業研究討議会)
  6. お別れ会
- 9) 教育実習の日々ー公立中学校編 (40分)
  1. ○教育実習校における事前指導, ○実習参加の心構えと実習校側の説明 (週番, 朝会, 学年打合せ, 授業見学), ○教育実習担当指導者との打合せ (担当する授業単元の指示, 授業実施上における時間配分・調整法など)
  2. 初日の実習生行事  
登校 (出勤簿捺印, 登校指導), 全校朝礼 (実習生紹介), 担任クラスでの自己紹介, 授業参観, 給食指導。

3. 教育実習指導者による実習中の指導。  
指導過程の検討（構造化）、教具の使用法（カラーチョーク、コンパス・定規などの貸借）、学習活動の流れのつかみ方と反応喚起のポイント、発問と応答による交互作用の予測。
  4. 授業の展開
    - 中学2年の数学「証明」（展開、授業の反省、指導教員の助言、実習生の感想）
    - 中学2年の理科「実験：物質（ナフタレン）の溶ける温度の測定」（授業内容の構造化と流れの予測、実験技法と器具利用上の留意点の把握、事前リハーサル、測定のポイントのつかみ方、マッチの使用後の処置）
    - 部活参加（バスケットボール）
    - 中学2年国語「走れメロス」（発問・板書計画と指導案づくり、研究授業における発問。
    - 中学2年理科「授業：混合物から純粋な物質をとり出す方法」（板書の筆順、誤字・明瞭さなどの反省）
  5. 実習日誌の提出と指導教員による批評記入ならびに総括指導。
  6. 実習終了（終りのあいさつ）
- 10) 教育実習の日々ー公立高校編（40分）
1. 実習校での、教育実習生と教職員、生徒との出会い（初出勤、教職員との対面、全校集会での生徒への紹介、担当ホームルーム生徒との対面）
  2. 実習校教員の一般的指導（校長講話）
  3. 授業参観（実習指導者による授業〈生物〉の参観）
  4. 授業実習の準備（教科準備室での教材準備〈理科〉、出勤簿押印と実習生控室、指導案作成）
  5. 最初の授業実習（1年・生物）と授業後の指導助言
  6. 控室での昼食
  7. 学校図書館での教材研究
  8. 最初の授業実習（1年・地理）と授業後の反省会での指導
  9. クラブ活動への参加
  10. 研究授業（1年・生物）（一斉指導、顕微鏡による生徒実験指導）
  11. 授業反省会（生物）
  12. 実習日誌と実習生の感想

## センター紀要4号について

センター紀要4号の投稿原稿が3月31日で締め切られたが、以下の9編の論文の投稿があった。例年、発行が遅れがちであるのでなるべく早く発行できるよう準備していきたい。

1. 心肺機能からみたラジオ体操中の運動強度  
竹林浩樹・山地啓司
2. 音による動的作業と精神作業に与える影響  
伊藤静・山地啓司
3. スポーツクラブ参加者の中途退会原因に関する研究  
市川恵子・山地啓司
4. Action proof と演算構造の把握

— 教具を用いた演算の指導 —

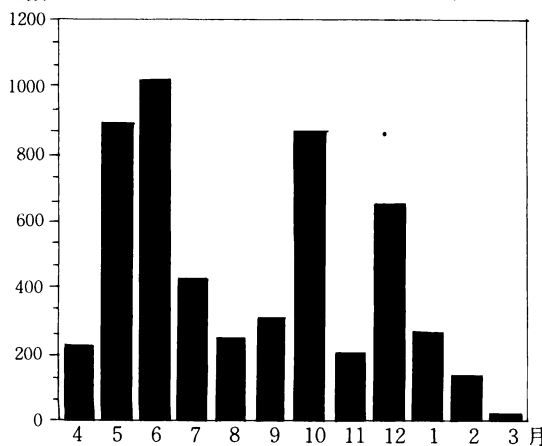
栗原幹夫

5. 理科教材研究(生物)として実施した「栽培」に関するアンケート調査結果  
田中晋・渡辺信・穴山彊・結城善之
6. 「教授学」の研究枠組みに関する一試論(その1)  
広田忍
7. 教育実習の事中指導に関する改善研究  
— 小学校における実習の実態とその問題点について —  
山下三郎・山西潤一・佐々木光三
8. 教育実習の事中指導に関する改善研究  
— 教育実習自己評価の統計的考察 —  
山西潤一・山下三郎・松原勇・佐々木光三
9. 大学生の平日の生活に関する統計分析  
— 因子分析・分散分析の結果 —  
松原勇・高尾テルノ・山西潤一

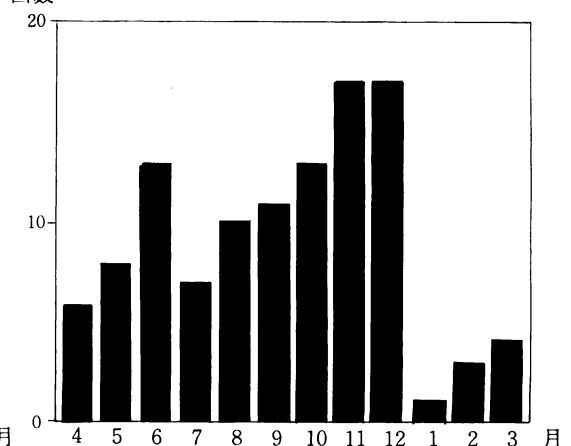
## 昭和62年度センター利用状況

センターの設備も年毎に整備され、利用者も増加の一途をたどっている。昨年度は、グラフに示す通り、延べ人数で5,427人の利用者があった。授業実践研究室、マイクロテーピング室での視聴覚機器を使用しての教科教育、教材研究の他、映像教材開発室のビデオ編集機器を使用しての、映像教材開発や行動分析、訓練プログラム開発室でのコンピュータの活用等が中心である。教科別利用もさまざまで、文字どおり、センターが学部の共同研究利用施設として活用されている。特に卒業研究でのパーソナルコンピュータの活用が急増しており、対応に苦慮するほどである。幸い、62年度末に、センターニュース前号に紹介したマッキントッシュ20台から構成される情報教育用システムが導入された。教師教育における情報教育の充実が叫ばれている今日、これら諸設備がより一層教育研究に活用されることを期待している。

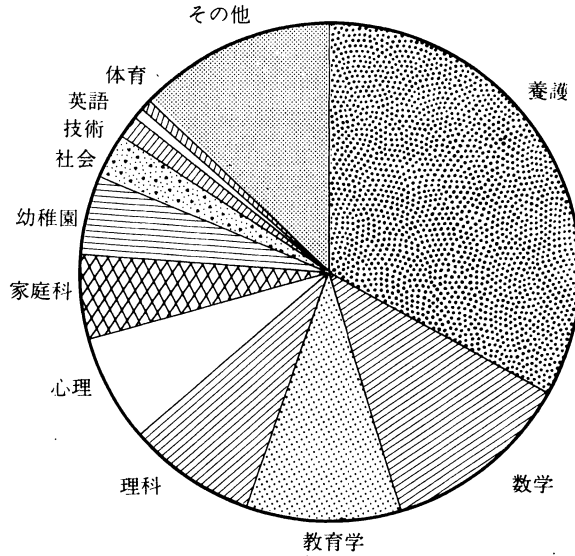
人数 昭和62年度センター利用者数



回数 昭和62年度機器貸出状況



教科別利用率



センタートピックス

中国との教育工学領域における教育協力事業でセンターの山西助教授が日本側専門家として、6月21日(火)～8月28日(日)までの約2ヶ月間北京に出張されます。北京教育学院を中心とする教育関係機関で、「教師教育と教育工学」「視聴覚メディア」「コンピュータの教育利用」等を指導されるとのことです。

センターの利用に際して、御不便をおかけするかも知れませんがよろしくお願い申し上げます。

印刷	昭和63年6月30日
発行	昭和63年6月30日
編集発行	富山大学教育学部
	附属教育実践研究指導センター
代表者	佐々木 光 三
〒930	富山市五福3190
	(TEL)0764-41-1271
	内線 2540～2542